

単元名

昔と今のものの見方、考え方を比べる

第1学年 C読むこと

内容のまとめり 第1学年

〔知識及び技能〕

(3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力・判断力・表現力等〕「C読むこと」

1 単元の目標

- (1) 音読に必要な文語の決まりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。〔知識及び技能〕(3)ア
- (2) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)イ
- (3) 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、想いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動

『竹取物語』を読んで、昔の人と今の私たちの見方や考え方を比べて考えたことを説明する。

(関連：〔思考力・判断力・表現力等〕C(2)イ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 音読に必要な文語の決まりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	① 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えようとしている。(C(1)イ)	① 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、想いや考えを伝え合おうとしている。

4 研究との関わり

【研究内容1】との関わり

「いとわろかりしかども」という言葉に着目し、その表現の効果を考えさせる。この言葉は、架空の冒険談のしめくくりとして、くらしの皇子がたたみかけるように語っている。この言葉に着目させることで、生徒にくらしの皇子が玉の枝が本物であるように見せかけていることに気づかせたい。

【研究内容2】との関わり

本単元における国語科の自己調整力を「仲間の考えに触れたり、繰り返し本文を読み返したりすることで、本時のねらいに迫る姿」と考えた。そこで、仲間の考えや板書をもとに考えたり、なぜそのようにまとめることができたのかという思考のプロセスを振り返らせたりする時間を位置づける。

5 指導と評価の計画（4時間）

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○『竹取物語』について、時代背景や自分の知っている竹取物語について交流する。 ○全体を通読し、概要を理解する。	〔知識・技能〕①	ノート 観察
2 ・ 3	○「まことしやか」に語っている部分よりの読み深め、昔の人々の考え方を確かめる。 ○「言ひ伝へたる」内容について読み深め、昔の人々の考え方を確かめる。 ○貴公子たちの失敗談を読み、昔の人々の考え方を確かめる。	〔思考・判断・表現〕①	ノート ※ふり返り シート 観察
4	○「竹取物語」より昔の人の見方や考え方が表れている部分を抜き出し、今と比べて考えたことをまとめる。 ○まとめた内容を仲間と交流し、まとめる。	〔主体的に学習に取り組む態度〕①	ノート ※ふり返り シート

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○私たちの知っている「竹取物語」について交流する。 ○全文を範読する。 ○古文特有の言葉に着目し、語注や現代語訳と対応させて作品を読む。	・『竹取物語』を読み、今と昔のものの見方・考え方を比べて考えるという学習の見通しをもたせる。 ・自由に発言させる。 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認しながら音読させる。 ・「いとわろかりしかども」「違はましかば」など、昔の人の見方・考え方の参考になる言葉を挙げ、その意味を現代語訳より確認させる。	〔知識・技能〕 <u>ノート</u> ・言葉や文を踏まえた昔の人のものの見方・考え方の発見 〔思考・判断・表現〕 <u>ノート・発言</u> ・くらのちの皇子や天皇のかぐや姫に対する気持ちや今の私たちの生活と比べながら読み深めている。
2 ・ 3	○本時の場面を音読する。 ○くらのちの皇子が「まことしやか」に語っている部分を探す。 ○「まことしやか」に語る理由を考える。 ○昔と今のものの見方・考え方について	・着目すべき語句を絞り、小集団学習を位置づける。その中でくらのちの皇子の作戦について考えを深められるようにする。	

	<p>まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「言ひ伝へたる」内容について読む。 ○貴公子たちの失敗談を読み、昔の人々の考え方を確かめる。 ○昔と今のものの見方・考え方についてまとめる。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの学習を手掛かりに、今と昔のものの見方・考え方を比べる。 ○最も印象に残った部分を選び、今の昔のものの見方・考え方についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2時と第3時の学習を振り返らせながら、考えさせる。 ・「私は最初一だと思っていたが、学習を通して、～に変わった。今の時代と、一部の部分では一緒だが・・・」と、視点をもとに記述できるようにする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔主体的に学習に取り組む態度〕</p> <p><u>ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2時と第3時のふり返りの内容等を合わせて評価する。 </div>

6 本時のねらい

くらもちの皇子が語った架空の冒険談を読む活動を通して、蓬萊山を見てきたかのような表現や、「いとわろかりしかども」という表現が玉の枝が偽物だと疑われないための工夫であることに気づき、くらもちの皇子がいくつも計略を重ねていることを読み取ることができる。

7 本時の展開 (第2時/全4時間)

過程	学習活動	研究との関わり
導入	<p>1. くらもちの皇子が語る部分を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くらもちの皇子の目的を確認する。 	
展開	<p>2. 課題を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>くらもちの皇子は姫と結婚するためにどんな工夫をしたのだろう。</p> </div> <p>3. 個人追求をした後、全体追求をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「二、三日ばかり見歩くに、」…慎重に時間をかけて探してきたふりをした。 ・「天人のよそほひしたる女」…他の人を出すことで、蓬萊山は本物だったという話に説得力を出した。 ・「天人のよそほひしたる女」「世になき花の木」「金・銀・瑠璃色の水」「色々の玉の橋」「照り輝く木ども」…蓬萊山でさも見てきたように具体的に語ることで、蓬萊山が本当にあったという話に説得力を出した。玉の枝はきれいなものだから、きれいな場所からとってきたという話は説得力があるから。 <p>4. 小集団で考えを吟味する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いとわろかりしかども」…蓬萊山はすごかったとあれほど語ったのに、持ってきた玉の枝がこれでは、玉の枝は偽物だとばれてしまうかもしれないから、見劣りすると言った。 	<p>4. 研究内容 1</p> <p>「いとわろかりしかども」に着目させ、この表現が玉の枝が偽物だと疑われないための工夫であることに気づかせる。</p>
終末	<p>5. 本時のまとめを書く。</p> <p>※まとめを書く手がかりとして、板書を活用できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>くらもちの皇子は、なんとしても姫と結婚するために、「金・銀・瑠璃色の水」「天人のよそほひしたる女」などさも見てきたように語って蓬萊山に本当に行ってきたと思わせる工夫や、「いとわろかりしかども」と言って玉の枝が本物と見せかけようとする工夫をした。</p> </div> <p>6. なぜまとめが書けたのかを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>私は、「いとわろかりしかども」には気づいていなかったけれど、仲間の意見を聞いて(黒板を見て)、もう一度教科書を読み直したら、確かに玉の枝が本物だと信じさせるために言っていることが分かったから。</p> </div>	<p>5. 研究内容 2</p> <p>板書や仲間の考えをきっかけに本文に立ち返り、自分の考えを再構築させる。</p> <p>6. 研究内容 2</p> <p>なぜ、そのまとめが書けたのか、思考のプロセスを振り返らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><u>評価規準 (読む)</u></p> <p>くらもちの皇子が姫と結婚するためにした工夫を読み取っている。【ノート】</p> </div>